

## 春の彩り満載

### 地域食材を活用した「お花見弁当」発表会

2月16日、大河原町商工会館を会場に「お花見弁当発表会（主催：大河原町商工会）」が開催されました。当日は町内の飲食店7店が出品し、おおがわら桜まつり実行委員などの関係者約20名が試食を行いました。参加者は、町内特産のもち豚や野菜などを取り入れた春らしい彩り豊かなお弁当を、目で楽しみ、実際に食して、一足早い花見気分を味わいました。

今回出品されたお弁当は、4月5日から19日の桜まつり期間中、まつり会場（白石川右岸河川敷公園）で販売されます。



▲どれも美味しそうで、お腹がいっぱいなのも忘れて試食しました。

## 自分の体成分を知ろう!!

### ～歩きたくなるまち事業～ からだ成分分析測定会



▲学生の説明を受けながら、測定する参加者。

2月13日から15日までの3日間、世代交流いきいきプラザや総合体育館など町内5か所を会場に、「歩きたくなるまち事業・からだ成分分析測定会（主催：大河原町）」が開催され、3日間で345名が参加しました。

測定会は、仙台大学の学生の協力を受け、体成分分析測定器（インボディ）で筋肉量や水分量などの体のなかの成分を測定しました。測定後に学生から分かりやすく結果表の説明や健康チェックを受けた参加者は、「健康のために何をしたらいいか教えてもらいました」と健康に向かって背中を押してもらえたようでした。

## 認知症ってなに？

### 金ヶ瀬中学校 保健体育学習 「健康を守る社会の取り組み」



▲河内先生の講話を聴き、熱心にメモを取る生徒たち。

2月14日、金ヶ瀬中学校にて、3年生を対象に認知症をテーマとした保健体育学習が行われ、かわち医院の河内三郎先生と、地域包括支援センター職員が講師として授業を行いました。

河内先生からは講話として、認知症とは何か、症状や原因、家族が認知症になった場合は、何度も同じ話をしても責めてはいけないなど対応方法について説明がありました。地域包括支援センター職員からは、認知症を題材にした中学生人権作文の紹介や、認知症サポーター、長寿まもり隊などの認知症のかたを支える取り組みについての紹介がありました。

生徒たちは二人の講師の話に耳を傾け、認知症についての理解を深め、認知症患者に対して何ができるのかを真剣に考えているようでした。

## 夢に向かって羽ばたけ

### 第55回大河原中学校立志式

かつて大人として認められた元服の年齢、数え年の15歳を迎えるにあたり、将来へ向けた決意を新たにす大河原中学校の伝統行事「立志式」が、2月2日、えぞこホールで行われました。

全国に先駆けて大河原中学校で始められたこの行事も、今年で55回目を迎えました。この日立志式を迎えたのは2年生198名。立志生自らが司会進行を務め、6名の代表生徒がステージ上で、それぞれの将来の夢と実現に向けた決意を発表した後、クラスごとに誓いの言葉を述べました。また立志生全員で考えに考え、練習を重ねてきた記念合唱では、感謝の気持ちや未来への希望を歌詞にしたオリジナル曲「夢輝いて」を全員で披露。思いが込められた歌詞と歌声に、会場は感動に包まれました。

最後に、代表者による両親への感謝の手紙の朗読では、来場した保護者をはじめ多くのかたが感極まり涙を流していました。

立志生たちはこの立志式を通して、将来への決意や目標を明らかにし、大人への一歩を踏み出しました。



▲将来の夢を堂々と発表する立志生代表。



▲テニスができる環境を作り、支えてくれた両親へ感謝の気持ちを伝える、立志生代表の齊藤双葉さん。

## 今までありがとう

### 金ヶ瀬カトリック保育園「旧園舎へ感謝のメッセージ」

園舎の建て替えが行われた金ヶ瀬カトリック保育園にて、2月1日から9日までの間、園児たちの手により、旧園舎へ感謝のメッセージが書き込まれました。

園児たちは、旧園舎内のいたるところにクレヨンやフェルトペンで「ありがとう」「ほいくえんだいすき」などのメッセージや、保育園のシンボルだったブドウの木の周りで遊んでいる絵など、各々の思いを自由に書き込み、旧園舎との別れを惜しみました。

旧園舎は昭和46年1月に建設されてから47年もの長い間、園児たちの成長を見守ってきましたが、老朽化により今回建替えとなりました。新園舎には2月13日に移動し、2月14日から旧園舎の解体工事が始まりました。



▶夢中になってメッセージを書く園児たち。



▲工事のため伐採されたブドウの木も描かれました。